

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

チャバネアオカメムシ越冬調査結果について（送付）

このことについて、チャバネアオカメムシ越冬調査結果を取りまとめましたので送付します。防除指導の資料として御活用下さい。

チャバネアオカメムシ越冬調査（平成16年冬期）

1 調査の目的

果樹を加害するカメムシ類は、越冬数と5～7月の予察灯誘殺数（発生量の指標）の相関が高いことから、果樹園での5～7月の発生量を予測するため、カメムシ類の中で最も発生量が多いチャバネアオカメムシの越冬調査を行う。

2 調査方法（ふるい法）

チャバネアオカメムシは、主として落葉の下で成虫で越冬するが、体色が周りの落葉とよく似た暗褐色に変化し、また動きが鈍いため野外での発見は困難である。そこで、一定面積の落葉を集めてふるいにかけて、大型ポリ袋に入れ、25℃の定温条件下に置き、4～6日後に落葉から出てきたカメムシを調査した。なお、落葉を集めた場所は、チャバネアオカメムシの越冬密度が高いと思われる南向き斜面のシイ、カシなどの常緑広葉樹林を選んだ。

3 調査期間

平成16年1、2月

県下16カ所（1地点につき1m×1m×3カ所の計3m²調査）

4 調査結果

表1 県内各地点におけるチャバネアオカメムシの越冬数（単位：頭/3m²）

調査地点	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8	H7	H6	H5	H4
熊本市河内町野出	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	2	0	1
熊本市河内町温泉	0	0	4	0	2	1	0	0	4	0	1	1	3
三角町郡浦	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
三角町向山	0	0	2	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0
不知火町大見	1	0	1	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0
松橋町豊福	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	1
豊野村安見	0	0	3	0	1	0	1	2	1	0	1	1	2
天水町赤仁田	0	0	2	0	3	0	1	0	1	0	0	0	1
山鹿市三玉	0	0	22	0	3	0	3	2	17	0	1	0	1
植木町木留	3	0	12	0	2	0	1	0	49	0	2	1	3
菊池市玉祥寺	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3	0	1
甲佐町寒野	2	0	4	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1
竜北町大野	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	1	0	5
田浦町太田	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	4
本渡市	2	0	10	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1
苓北町内田	1	2	0	0	0	0	0	0	14	1	1	1	4
合計（頭）	11	3	63	0	16	2	9	5	130	2	14	5	29

注；平成16年の合計にはクサギカメムシ1頭（不知火町大見）を含む。

5 考察

- (1) 平成16年冬期のチャバネアオカメムシの越冬数は表1のとおりで、合計10頭(クサギカメムシ1頭を除く)と過去11年間の平年値(平成8年の多発年の値を除いた11年分の平均)13.5頭に比べ若干少なかったが、おおよそ平年並であった。
また、本年は越冬中の死亡が2頭(合計に含まない)あった。
- (2) チャバネアオカメムシの5～7月の予察灯誘殺数は、当年の越冬数に比例する傾向にある(図1)ため、新成虫が発生する前の7月下旬までのカンキツ、ナシ、カキ、モモ、スモモ等の果実への被害は平年並みと予想される。
なお、県全体の傾向としては平年並の予想だが、場所によって変動が大きいので注意する。
- (3) 果樹を加害するカメムシ類は、本県ではチャバネアオカメムシが多く、この種の発生動向を調査することによりおおよその傾向が把握できるが、天草や県南の一部地域においてはツヤアオカメムシの割合が比較的高いので、園周辺を見回るなどの注意が必要である。
- (4) 8月以降の新成虫の発生は、餌となるスギ、ヒノキの球果の量や状態に大きく左右され、球果量が多く、夏期が比較的湿潤で球果が劣化しなければカメムシの発生量は多く、球果量が少なく夏期が高温乾燥であれば発生は少なくなる。現時点での北部九州のスギ・ヒノキ花粉飛散量は平年より少ない予想なので、スギ、ヒノキの球果量は少なく、新成虫の発生量も少ないと予想される。

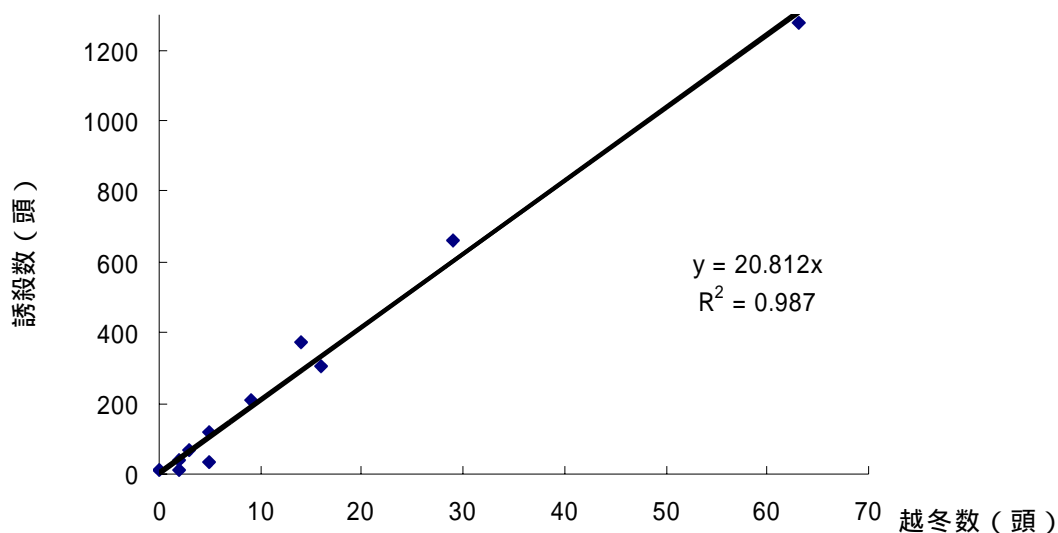


図1 チャバネアオカメムシの越冬数と5～7月期誘殺数との関係

注 平成8年のデータを除く。

誘殺数：予察灯における5～7月誘殺数(合志町)

越冬数：越冬調査16地点合計値(表1)